

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102210		
法人名	医療法人社団 郁栄会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム サンライズ菱形		
所在地	熊本県熊本市北区植木町滴水1703-3		
自己評価作成日	平成31年3月4日	評価結果市町村報告日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成31年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流の一環として、入居者と一緒に行事に参加したり、いきいきサロンなどで講師として話をしたり地域との結びつきを深めている。日々の生活の中で季節感を大切にしており、季節を感じて頂けるような行事を計画し実施している。また、その時々飾り付けを行ない、日常的にも季節を感じていただけるよう努めている。食事についても管理栄養士が献立を立てており、旬の食材を使用したり、季節に沿った行事食を提供している。また敷地内には畑があり、旬の野菜を植え収穫し、食事やに添えたり、おやつとして調理し提供している。食事の形態や時間も入居者の状況や要望に応じ柔軟に対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4月で開所1年を迎えるホームの敷地には、日当たりの良い場所に菜園があります。季節毎の野菜が作られており、訪問時にも白菜や大根・ネギなど冬野菜の栽培が収穫を待っていました。室内は、木造の温かみある空間の中、穏やかで安心した生活が営まれています。掲示されている入居者の写真には笑顔があふれ、日頃の生活の様子が窺えました。職員は職員会議等を利用してグループホームの生活や支援の在り方、また具体的な対応・言葉遣いについて意見を出しあい、記録の書き方を学び、情報共有に付いての話し合いが行われています。入居者・職員相互の「笑顔・やすらぎ・感謝」の理念を大切にしたいケア実現に向けた取り組みを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔・やすらぎ・感謝」と理念を定め、安心した生活を送って頂けるようなケアが実践できるよう心掛けている。感謝の意を忘れないよう、何か一緒にしてい頂いたら必ずお声掛けをするように心掛けている。	「笑顔・やすらぎ・感謝」は入居者・家族と職員との「お互いに」を意識して開所時に職員の話し合いで定めた理念である。	理念は入居者の生活や業務の根幹となるものです。職員会議等を利用して振り返る機会を持ち、理念や思いの共有が継続されることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはできるだけ参加するように努めている。入居者の地元の催し物に関してはお連れし、交流できる場を作れるようにしている。	周辺は「まちづくり」が盛んな地域であり、運営推進委員会等を利用し、行事・催事への声掛けも頂き参加する入居者も見られる。認知症啓発や講習会等への協力依頼は職員も積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出前講座やいきいきサロン、ささえりあや社会福祉協議会などからの依頼があった際には協力できるよう心掛けている。地域の行事にもできるだけ参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や行事、職員の研修情報など報告を行なっている。年に1回は6食事を計画し、入居者様がどのような食事を摂取されているか知って頂く機会を設けている。	2ヶ月に1回の会議は地域代表・ささえりあ・利用者家族代表とで構成され、事業所・入居者の活動や状況の報告だけでなく、職員研修や職員の活動等も報告している。意見交換は活発で、地域への関わりや認知症の啓発にも活かされている。	活発な会議の様子が窺えました。地域・家族にも事業所の理念や思いを継続して伝えることで、入居者を共に支える仕組みに繋がると考えます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの調査や依頼には協力できるようにしている。事故が発生した場合は速やかに報告を行ったり、相談や疑問点が生じた場合は連絡を取っている。また、グループホーム以外のサービスが必要とされる様な方の場合等はささえりあへ連絡を取り対応して頂いている。	市へは報告や相談を通じ関係の構築を行っている。日頃の運営の様子は運営推進会議にてささえりあへ報告しており、またささえりあや社会福祉協議会からの出前講座等への依頼は積極的に受け、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針・アセスメント表等を備え付け、いつでも閲覧できるようにしている。また法人全体と事業所単位でも勉強会を開催し、知識・情報を共有できるようにしている。玄関に関してはセキュリティ一面から施錠を行なっているが、入居者からの要望があれば解除し、職員が付き添い外出支援を積極的に行うようにしている。	法人全体での委員会に事業所職員も構成員として参加しており、委員会の内容は事業所の勉強会でも報告し情報共有している。この一年は職員会議等で具体的なケア方法・対応についても話を重ねてきた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護の研修会に参加し、伝達講習を行なっている。虐待の種類や内容などについて説明し実際に行なってはならないかを朝礼などで確認しあうよう心掛けている。また、研修資料はいつでも閲覧できるように設置している。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度に関するパンフレットを備え付け、それに関する勉強会を予定している。また、必要のある入居者がいる場合は関係者と協議する体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族と面談を行い、契約書・重要事項説明書の説明を行なっている。書類は持ち帰り熟読して頂き、不明な点がある場合は説明した上で契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に事業所及び行政の苦情相談窓口について説明を行なっている。面会時等に頂いた意見は職員間で共有できるように申し送りノートに記載し朝礼の時に意見交換を行いすぐに対応できるように努めている。また、運営推進会議で報告し意見を聞く体制を整えている。	現在、家族等の面会も多く見られ、その際には管理者や職員も対応し意見を出しやすい環境・関係作りに努めている。意見は職員へも周知し、法人・運営推進会議へ報告し、意見を求めるとともに検討、必要に応じ運営へ反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員が意見を出し合い、改善策を検討している。その場で解決できない事には法人本部へ相談している。また、議事録は法人幹部へ提出し、会議内容を確認、助言を頂いている。	毎月の職員会議で意見を出し合う機会を持つ。開所初年度である今年は職員の見解を出し合いながら、事業所としての共有意識での対応を行うことをわかり合う為の話し合いを重ねてきた。職員からの意見や要望は内容によって法人へも報告し、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じた勤務状況を整えるように努力している。希望に沿った休暇が取れるよう配慮し、ゆとりを持って業務に取り組めるような環境作りを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や職歴に応じた研修に参加できるように分配している。法人内では新人・3年目・中堅・主任等に分け年間を通して研修を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管轄区域の管理者会や地域密着型の連絡会等に参加し、同業者との交流や意見交換ができる機会を作っている。また、介護支援専門員は地区の協議会の研修会に参加し学習や地域の同業者との連携を図るよう努めている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前調査を行い本人の思いをくみ取れるよう、本人様をはじめ関わりのあるスタッフ・家族の方から情報を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までに何度かご家族ともお会いする機会を設け、家族の思いや要望を確認し、ケアに繋げていくことができるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった場合、状況を確認し当事業所以外の他のサービスが妥当だと判断できる場合は状況に応じた施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で台拭きやトレー並べ、洗濯干し等の家事活動を行なってもらっている。行なってもらった際には労いのお言葉をかけ、感謝に意を示よう努めている。入居者と職員という立場ではなく、共に生活をしている者ということを念頭に置き接するよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には本人様の状況をお伝えするようにしている。その他でも本人様の不安等が生じた場合はすぐにご家族へ連絡し、お互いが安心できるような働きかけができるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元住民だった方に対しては色々な催し物へ参加させて頂いている。その他、行きつけの美容室や馴染みの店に買い物に行ったり、自宅や自宅近辺へ定期的な外出などご家族にも協力頂き行っている。自宅への定期的な外出等ご家族にも協力して頂いている。	家族の協力もあり一時帰宅や外出もよく見られる。地元からの入居者は職員同行で地域行事への参加も継続している。日々の外出支援も行われており、近隣店舗の利用等、入居後の新たな馴染みの場所も出来つつある段階でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立される方が出て来ないよう、日々のレクリエーションにお誘いしたり、話ができるような環境を設けるように努めている。また、入居者様同士のトラブル回避のためにも座席の配置などにも配慮している。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も次の入所先へ面会へ行き、状況を伺うようにしているが、契約終了者もわずかであるため、ご家族からの相談を受けたりしたことは現在までにはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動以外にも実際の行動や日常の様子をよく観察し、意向が掴めるように努力している。また、実際に要望があった場合には可能な限り添えられるよう努力している。	入居前に本人・家族と面談し、意向・希望の把握を十分に行い受け入れ、入居後も寄り添いの中で希望・意向の確認を重ねている。継続したケアに通じることはアセスメントシートやカンファレンスを経て介護計画への反映に繋がっている。	入居前の趣味や、嗜好品等ひとり一人の思いや意向に沿ったケアについても更に話し合う機会を検討下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時を通じて本人やご家族より聞き出せるようにしている。また、これまでに関わりのあった関係者にも直接話を聞いたり、アセスメントシート等を活用し状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを極力崩さないように、本人のペースで生活して頂けるよう配慮している。個人の有する力やその日の状況に関しては情報を共有できるよう日々介護記録に残すよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回・計画更新時には必ずカンファレンスを行い意見交換を行った上で計画作成担当者が作成している。また、毎月プランの評価を行い計画に対して振り返りを行うよう努めている。	入居者それぞれに担当職員が決められており、中心となって3ヶ月毎にアセスメント・カンファレンスを行う。担当者は本人・家族の思いと共に担当として検討したい事項を挙げ、全職員で意見を出し合い介護計画の見直しに繋げる。介護計画の評価は毎月担当者で行っている。	「ケアプラン作成・説明更新の流れ」が定められ全職員の関わりが見られ、「生き生きと」を念頭に置いた介護計画作成の様子が見られました。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤帯でその日の状況や取り組んだ内容等を必ず記録に残すようにしている。出勤時には職員それぞれが介護記録に目を通し、情報の共有を図るよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に応じ病院受診の調整・付き添いを行なっている。通院の必要がある際は送迎を行い、点滴等の医療行為が必要になった場合、看護師によりホーム内で施行する等、状況に応じた対応を行うよう努めている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望される方には近所のスーパーに日用品や食料品の買い物に出かけたり、ヤクルトやパンの移動販売があった際にはお知らせをし、購入できるように援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の説明時に希望の受診先(投薬等を含め)の希望を確認している。入居を機にかかりつけ医を事業所の協力医療機関に変更される場合が多いが、その際は前医からの情報提供書を頂き、適切な医療が継続して受けられるよう支援を行なっている。	入居前のかかりつけ医を継続して受診できるが、協力医療機関への移行を希望される場合も多い。協力医療機関への定期受診は職員付き添いでの通院で、その他専門医及び個別希望の受診は家族による介助を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に何か変化があった際には速やかに介護職から報告してもらうよう日頃から声掛けを行なっている。また、看護師の視点から注意してほしいことを伝えるようにし、できるだけ早期に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は医療機関へ連絡を取り、状況の確認や今後の方向性について相談を行なっている。また実際に訪問し状態を確認するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合の指針について説明を行なっている。急変時の対応や搬送先等についても家族へ説明し確認は行なっているが、実際の対象者がいない為、現在までには終末期の在り方についての話し合いまでは至っていない。	開所一年を迎える今年は事例は無いが、事業所として重度化や終末期の対応が必要になった際には医療機関とも連携し支援を行う体制である。入居前に重度化した場合・緊急の場合について説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署にて救急蘇生の講習会を行なって頂き参加している。ホームでも救急蘇生の方法をフロア内に掲示し日頃から確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(1回は夜間想定)昼間・夜間想定で防災訓練を行なっている。職員間での緊急連絡網を作成し各自携帯している。すぐ近くに同じグループの事業所があるため災害発生時の対応など連携を図っている。	防災訓練は事業所単独で年2回昼・夜想定で行う。居室他扉には常時目印のテープを貼付しており、手順に沿って練習も行っている。法人他事業所も近隣にあり、連携も図っている。	

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩として接するように心がけている。特に言葉遣いには十分に気を付け、一人一人の性格に合わせた声掛けや対応を行なっている。また、共同生活ということに十分にわきまえ。発言内容やタイミングには配慮している。	日頃の業務の中で、職員の言葉遣いや対応で気になる時には管理者から職員へ伝えている。特に見守り時の対応・声掛けはケースにより具体例で伝え、ケアの統一を図ってきた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく意思決定がしやすいような声かけの仕方を工夫している。声かけの内容に拒否がある場合は理由を把握できるように歩み寄り、思いをつかめるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等はある程度時間が決まっているが、その中でも個人のその日の状況に応じ柔軟に対応するよう努めている。入浴の希望時間帯はできるだけ本人が望まれる時間にできるよう調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や更衣の際にはご自身で衣類を選択してもらうように働きかけている。また月に1回、散髪希望の方や馴染み化粧品店からの購入をして頂けるように支援している。季節に応じた衣類を着用して頂ける為に衣替えを行うように職員が介入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用した食事を提供している。視覚でも楽しんで頂けるよう、食事の内容に応じて食器を選別している。食事の内容をホワイトボードに記載し楽しみを持って頂けるよう工夫している。また食事の準備や後片付けを一緒に行なってもらったりしている。	法人の合同事業所で作られている食事は「旬の食材を使うこと」を法人の考えとして掲げており、行事食や変わりご飯等、献立も工夫されている。入居者によるメニュー書き、食器洗い・拭き等の関わりも見られる。職員も同じ食事を共に摂ることで好みや体調に至るまで把握している。毎月栄養課ミーティングが行われ、意見も取り入れられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病のある方に対しては食事量を微調整したり、水分摂取が少ない方に対しては飲水量を記入し、意識的に促すよう努めている。固めの食材に関しては個々の状況に応じて一口大にカットして提供し、食事摂取量も毎回確認し記録している。栄養面に関しては管理栄養士が献立を立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや一部介助にて個々に実践しているが、毎食後は応じられない方もいる。その場合は再度促し出来るだけ行なってもらえるよう努めている。必要に応じては協力医の歯科へ往診を依頼し口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせてオムツ類の使用を検討している。排泄パターンを把握できるようチェック表を活用し、間隔が開いている場合は声掛けを行い誘導し、なるべくトイレでの排泄ができるように努めている。	入居者それぞれの排泄状況をチェックしている。現状、パット等を利用しながら昼間は全員トイレを利用し、夜はポータブルの利用もある。できるだけトイレでの排泄が出来るよう、チェック表により声掛けを行う等支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を重視し、水分量や活動量を把握し水分摂取や軽い運動を促し施行している。また、便秘傾向にある方にはの食事の際にセンイ粉を活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	危険防止のため入浴は昼間に入浴して頂いている。均等に入浴ができるよう予め曜日等は決めてはいるが、必ずしもその通りに行なうのではなく、その日の個人の状況やタイミングに合わせて変更するようにしている。入浴の順番やタイミングについてはできるだけ希望に沿えるよう配慮している。	浴室の利用は週6日、午前・午後希望により入浴ができる。それぞれのその日の状況にもよるがおおよそ週3回程度である。安全とプライバシーへ配慮しながら、それぞれに合った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の疲労感などに応じた午睡の時期や時間を検討している。これまでの生活習慣や入居前の施設等の情報も参考にしている。また入浴後疲労感が強い方は次の活動までに休んで頂くなど、個人に合わせて休息の仕方を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服チェック表と説明書をファイル化し、介護職にも薬の内容を把握できるようにしている。内服が変更・追加になった際は全スタッフが目を通せるように注意点を記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に応じて役割を見つけ出し、一日のうち何か一つでも行なって頂くことで存在意義を感じて頂けるよう努力している。イベントを行う際にもこれまでの職歴や生活歴を参考にし役割を分担している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物等の希望があれば外出している。時には近隣へのドライブを行い気分転換を図って頂けるようにしているが、日常的には行っていない。季節のイベントにはできるだけ外出できる機会を作るようには努めている。	日常的に個々の希望による外出は難しい状況であるが、敷地内の散歩や職員外出時の同行・買い物等を支援している。個別の外出では家族の協力も大きく、一時帰宅や家族との外出等も見られる。初詣や季節行事等、計画による外出支援も行っている。	

グループホームサンライズ菱形

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じ少額のお金を所持して頂くこともあるが、管理が困難な方は家族の同意の元、預り金として鍵のかかる場所に保管し、希望がある場合や外出の際に好きな物を購入して頂けるよに支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人が希望される場合は携帯電話を所持して頂いている。所持されている方は自由に電話のやり取りができるようにし、その他の方も希望された際はご家族へ電話を取り次ぎを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、職員でホーム内の掃除を行い、気持ちよく過ごして頂けるように努めている。時間帯に応じて光や室温の調整をするよう心掛けている。また、フロアには季節感を感じて頂けるようその時々に応じた飾り付けなどを作成し、視覚からの取入れを工夫するようになっている。	温かみのある木造の事業所は車椅子でもゆったりと移動ができる広さがある。玄関には季節の飾りがあり、部屋が分かりづらい入居者のためには案内表示を行っている。清掃も行き届いており、トイレ利用後は職員が確認を行う等配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いたり、日光浴をされる際には廊下へ椅子を移動させたり等、自席以外でも思い思い過ごして頂けるよう配慮している。また、自然と気の合う方同士のコミュニティが形成されており、それを妨げないよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	空室がある時は和室か洋室を選んで頂き、入居の際に馴染みの物は持参してもよいことを説明している。大きな物の持ち込みは殆どないが、ご家族の写真や好きな物(花や飾り類)を飾っていただけるよう工夫している。	フローリングと一部畳敷き2種の居室にはクローゼット・収納・洗面台・ベッドが完備されており、すっきりと過ごすことができる。個々に家族の写真やテレビ等が持ち込まれ、過ごしやすい環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は自由に行動できるようにしており、動線には移動の妨げになるような物を置かないよう配慮している。トイレや居室の迷いがある方には入口の表示や、ナースコールがわかりやすいように説明を表示したり、視覚から捉えらるよう工夫している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 サンライズ菱形

作成日 平成 31年 3月 20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1 4	理念を念頭に置いたケアの実現と運営推進会議の活用	「笑顔・安らぎ・感謝」の理念に沿ったケアを提供することができる	①職員全員が理念を共有できるように、朝礼や職員会議の際に適宜振り返る。 ②ケアに対して問題が生じた場合、カンファレンスの際に理念を振り返り対策を立てる。 ③運営推進会議の際に入居者に行なったケアの状況や結果を報告する。	12ヶ月
2	23	個人の思いや意向に沿ったケアの提供	入居者個人の意向を把握し、ケアにつなげることができる	①家族や馴染みの方の面会の際に入居前の生活状況や現在の思いを聞き出せるよう積極的に関わる。 ②ケアに活かせるよう、申し送りやカンファレンスの際に情報を共有する（情報共有シートの作成を検討する）。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。